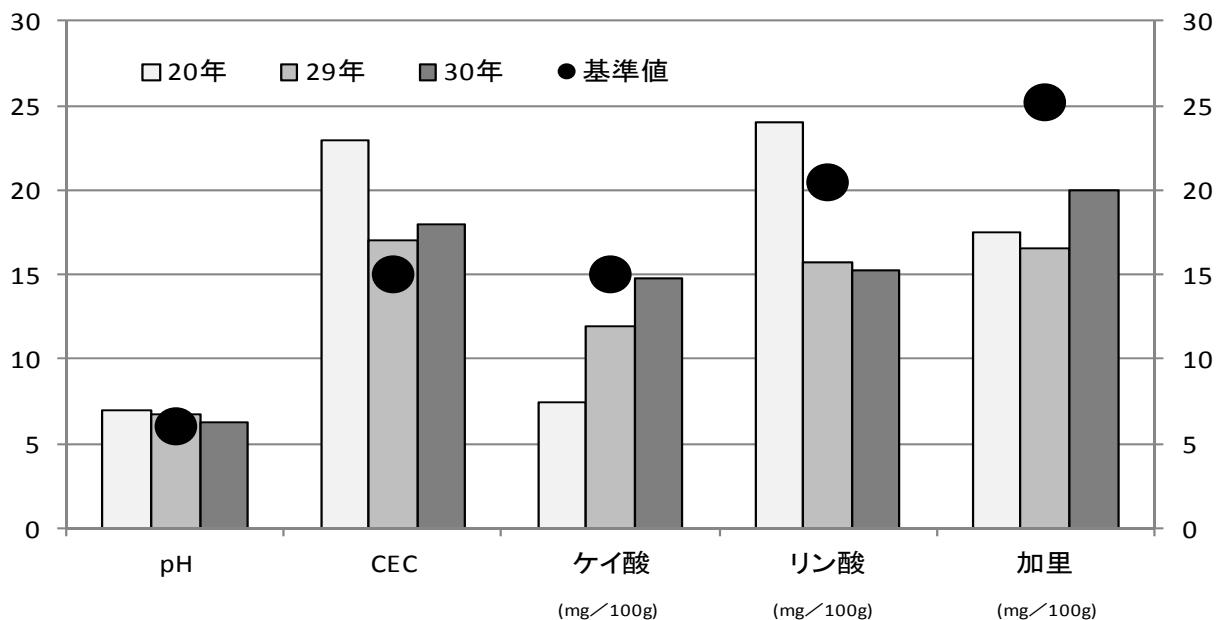


水稻重点技術対策

1. 土壤に足りない成分を補いましょう

水田土壤の三要素が欠乏することにより稻作全般の収穫量に大きな影響があります。近年の圃場を見てみると窒素(N)中心の肥料を施用し続けたためにリン酸とカリが欠乏している圃場が多く見られます。

土壤分析結果



土壤分析の結果を見ると平成20年に比べリン酸とカリが不足している圃場が多く見られました。



ミネラルPKで補いましょう（春60kg/10a・中間追肥20kg）

下記の結果にあるようにミネラルPKを代掻き前に施用した圃場は施用しない場合に比べ収量が多くなり、食味値が向上しました。また中間追肥に施用すると登熟が向上し品質や収量が良くなります。積極的に施用しましょう。

	施用量 (kg)	粒重 (kg)	粗玄米重 (kg)	精玄米重 (kg)	タンパク (%)	食味値
ミネラルPK有	40	804	642	580	5.7	77
ミネラルPK無	—	741	583	546	6.3	72

(丹南農林総合事務所調べ)

2. 品質・食味向上対策 ~より高品質な米づくりのために~



●一斉(面的)防除でカメムシの生息数を減らそう

斑点米予防にはラジコンヘリ防除などの一斉（面的）防除で生息数を減らすことが効果的ですので次年度以降も確実に2回以上の基幹防除を実施し、暖冬の場合は生息密度が高くなりますので仕上げ防除を実施しましょう。また水田周辺および麦あと水田の除草によりカメムシの生育密度低下に努めましょう。

●登熟期間の高温を避けるために適期田植を徹底しましょう

コシヒカリは登熟期間の高温障害による乳白を防ぐため出穂が8月10日頃になるように、播種や田植えは適期に実施しましょう。

3. 食味MAP・土壤診断MAPを利用した肥培管理を徹底しよう。

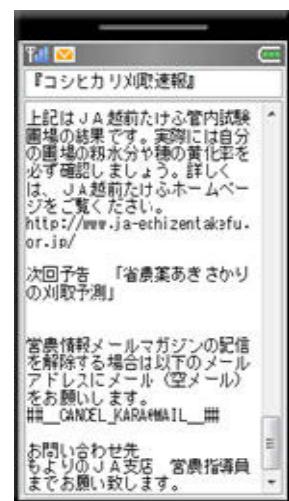
近年の極端な気象条件に負けないように食味MAPや土壤診断MAPを活用して土づくりを行い、中干しと溝切りで無効分けつの抑制と根の伸長を促しましょう。また高温の年には肥料切れに注意し水田の様子を観察した上で、穂肥の施用を行いましょう。

宮農情報メールサービスを活用しましょう。

J A 越前たけふでは、天候や生育状況やカントリーの荷受け情報などのタイムリーな情報を携帯電話やパソコンへメールでお届けしています。新しい情報を定期的に取得するため宮農情報メールサービスに登録しましょう。

登録は・・・

右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダーで読み取り、メール会員登録ページを表示します。もしくは、232g3r@a01.hm-f.jpへ空メールを送信してください。



【例】携帯電話に届いたメール